

## 教材に盛り込むべき事項についての意見

## ご意見

## I. 総論（薬害を学ぶことのコンセプト）について

薬害は人間の生命と健康にかかわる社会問題である。薬害教育の理念は、薬害という比較的新しく大きな生命と健康にかかわる社会問題について、薬害の歴史と事実を学び、薬害をもたらし続ける社会構造を知り、その改革を考える題材を与えることにある。

## II. 薬害から学ぶこと（教材に盛り込むべき事項・構成）

## ① 教材の基本的な考え方

教材は、薬害という人間の生命と健康にかかわる社会問題を通じて、やがて社会の担い手となる生徒たちひとりひとりが、社会参加へ道筋を主体的にたどるべきものとして位置づけ、取り組むことができるツールであること。

すなわち、生徒一人一人が主体的に考え、クラスなどの集団討議を経て、命と健康にかかわる薬害という社会問題に関して、民主的な学習成果をあげうる教材となる必要がある。したがって、

国はなぜ、薬害被害者に謝罪しなければならないのか。

国はなぜ、薬害被害者の被害回復を果たさなければならないのか。

国はなぜ、薬害を検証し、再発防止を約束し、果たさなければならないのか。

地方自治体はどのように国の役割を分担するのか。

人間の生命と健康にかかわる企業として、製薬会社が果たすべき社会的役割は何か。

薬の利用者としての国民は、どのような役割を果たすことができるか。

これらを、薬害被害者の、薬害からの回復の過程で出されるメッセージを受けとめながら、主体的に考え、集団的に討議し、自主的に取り組むことのできる教材とすること。

## ② 薬害の歴史の年表

大きな流れ図と発生機序、被害拡大の原因

サリドマイド → スモン → エイズ・ヤコブ → 肝炎

社会構造体としての問題点

## ③ 解決までの経過と枠組みと概要

社会問題化と国の解決までの道筋

## ④ 加害企業、製薬企業の取り組み

## ⑤ 各薬害の被害の概要

被害者の規模

薬害被害者のメッセージ

## ⑥ 社会問題としての薬害

薬害肝炎判決と国の謝罪

被害回復のための法律と政策

検証と再発防止

企業の役割

市民のできること

## III. 現場での活用にあたって（教材の使い方）

死蔵されることが多い。その現実を踏まえた効果的な対策を講じること。